

歿後400年 加藤清正の時代

平成23年 7月27日(水)～9月19日(月・祝)

展示期間 A: 7月27日(水)～8月23日(火) B: 8月24日(水)～9月19日(月・祝)

「賤ヶ岳の七本槍」や「虎狩」で知られる加藤清正是、尾張の出身（現名古屋市中村区）、この地域では特に人気のある戦国武将の一人です。清正を神として祀った「清正公」信仰も盛んです。永禄5年(1562)に生まれ、慶長16年(1611)に歿する清正の生涯は、豊臣秀吉・徳川家康の天下統一への道程と重なります。その時代は、鉄砲の組織的な使用や重層の天守などに象徴される戦国時代の佳境でした。清正の足跡をたどりながら彼の生きた時代を振り返ります。

No.	名 称	時代	世紀(年号)	所蔵者	展示期間
加藤清正像とゆかりの品々					
1	加藤清正祚画像(模本 原本 名古屋市妙行寺蔵)	桜井清香模写	昭和	昭和10年(1935)	A
2	加藤清正束帯画像(模本 原本 名古屋市妙行寺蔵)	桜井清香模写	昭和	昭和11年(1936)	B
3	加藤清正并十六将之図	江戸	18-19	A	
4	清正公大神儀 歌川芳員画	江戸-明治	19	B	
5	長烏帽子形兜 加藤清正所用	桃山	16	A	
6	長烏帽子形兜(模作 原本 加藤清正所持 徳川美術館蔵)	昭和10年(1935)		B	
7	太刀 銘 光忠 守家造 加藤清正・徳川家康(駿府御分物)所持	鎌倉	13		
8	片鎌鎗(模作 原本 加藤清正所用 東京国立博物館蔵)	附 黒漆塗鞘	江戸	慶応元年(1865)	
9	桐桔梗折墨紋散蒔絵脇息 尾藤知宣・加藤清正所用	桃山	16		
10	桔梗銀象嵌鎧 加藤清正所用	桃山	16		
11	唐銅天女文貼付象嵌百目大筒 加藤清正所用	桃山	慶長10年(1605)		
12	讃岐国御蔵米目録	二冊の内	桃山	天正13-14年(1585-86)	
13	讃岐国貸分目録		桃山	天正15年(1587)	
14	御城米貸分連判状 梶原平内宛		桃山	天正15年(1587)	
15	加藤清正領知宛行状 天正十七年八月二十八日		桃山	天正17年(1589)	個人蔵 B
16	加藤清正自筆書状 下川又左衛門宛(文禄二年)八月八日		桃山	文禄2年(1593)	個人蔵 A
17	加藤清正書状 熱田惣検校宛 四月五日		桃山	17	個人蔵
18	張州雑志 卷三十一 内藤東甫編	百冊の内	江戸	18	蓬左文庫
19	塵舩和歌集 加藤忠広(熊本加藤家2代)筆		江戸	17	
20	和歌懐紙「あひみての」 加藤忠広(熊本加藤家2代)筆		江戸	17	
21	金城温古録 六十二 拾遺編第一 加藤清正伝之部	奥村得義草案・奥村定著	明治	明治35年(1902)	蓬左文庫
清正の合戦					
22	平三角大身鎗 銘 兼上 片桐且元所持		桃山	16	
23	賤ヶ岳七本槍図		江戸	18-19	A
24	志津嶽合戦図		江戸	18	蓬左文庫 B
25	賤岳合戦布陣古絵図		江戸	18-19	
26	長久手合戦図屏風	六曲一隻	江戸	18	7/27-8/30
27	徳川家康書状 (天正十二年)三月十七日		桃山	天正12年(1584)	A

No.	名 称	時代	世紀(年号)	所蔵者	展示期間
28	徳川家康書状 平岩親吉・鳥居元忠宛 (天正十二年)四月九日	桃山	天正12年(1584)		B
29	小牧陣立書 秀吉花押	桃山	天正12年(1584)		
30	四国焼山大合戦之図 歌川豊宣画	明治	明治17年(1884)		A
31	豊殿下四国攻加藤清正・長曾我部信親勇戦一騎討之図 歌川芳虎画	明治	明治元年(1868)		B
32	太閤記九州合戦 歌川芳虎画	明治	明治17年(1884)		B

朝鮮出兵

33	豊臣秀吉高麗陣定書 天正二十年正月日	桃山	天正20年(1592)		
34	豊臣秀吉高麗国宛禁制 天正二十年正月日	桃山	天正20年(1592)		
35	加藤清正書状 九鬼四郎兵衛・粟生一郎右衛門宛 (天正二十年)八月二十二日	桃山	天正20年(1592)		
36	加藤清正書状 加藤与左衛門・九鬼四郎兵衛ほか宛 (天正二十年)十月二十七日	桃山	天正20年(1592)		
37	豊臣秀次朱印状 加藤主計頭(清正)宛 (文禄二年)正月五日	桃山	文禄2年(1593)		
38	加藤清正朝鮮陣中覚 文禄二年六月十一日	桃山	文禄2年(1593)		
39	豊臣秀吉朱印状 加藤主計頭(清正)宛 (慶長三年)正月二十五日	桃山	慶長3年(1598)		

清正の虎狩

40	虎頭蓋骨 大小	桃山	16		
41	佐藤正清虎狩之図 歌川国綱画	江戸	万延元年(1860)		A
42	清正朝鮮国ヨリ日本ノ富士ヲ見ル図 歌川芳藤画	明治	明治20年(1887)		A
43	清正拝富嶽図 浮田一蕙・松庵筆	江戸	19		B

城造り

44	名古屋城普請丁場割之図	江戸	17		蓬左文庫
45	加藤清正書状 牧助右衛門・瀧川豊前守宛 (慶長十五年)七月十四日	江戸	慶長15年(1610)		
46	蓬左遷府記稿 加藤品房著	江戸	文化14年(1817)		蓬左文庫
47	金城温古録 十四 御天守編之六 図彙部 奥村得義著	江戸	万延元年(1860)		蓬左文庫
48	尾張名所図会 前編 卷一 岡田啓・野口道直等編 小田切春江等画 七冊の内	江戸	天保15年(1844)		蓬左文庫
49	車軸火鉢 伝名古屋城築城時使用車軸転用 一对	江戸	17-18		

親しまれる清正 - 「清正公」さん -

50	加藤清正坐像 附 厨子	江戸	文政7年(1824)		
51	尾張名所図会 前編 卷五 岡田啓・野口道直等編 小田切春江等画 七冊の内	江戸	天保15年(1844)		蓬左文庫
52	金城温古録 六十三 拾遺編第二 加藤清正伝之部 奥村得義草案・奥村定著	明治	明治35年(1902)		蓬左文庫
53	清正公御宝物図	江戸	安政6年(1859)		清
54	絵本太閤記 八十四冊の内	江戸	寛政9年(1797) - 享和2年(1802)		
55	絵本豊臣勲巧記 八十冊の内	江戸	安政4年(1857) - 明治17年(1884)		蓬左文庫
56-61	郷土玩具の加藤清正 徳川義親蒐集の郷土玩具コレクションの内	昭和	20		個人蔵
56	清正采配持	57	清正虎乗	58	清正虎退治
59	清正虎退治(豆人形)	60	清正公の蝶	61	清正公の鯉幟

- ・所蔵者が は名古屋市秀吉清正記念館所蔵を示します。
- ・所蔵者が空欄は徳川美術館の所蔵品であることを示します。
- ・出品リストの番号は、展示順を示していません。

城造りあれこれ

平成23年 7月27日(水)～9月19日(月・祝)

現在、「城」といえば一般的に、白亜の天守および高い石垣、広く深い堀、といったイメージでとらえられています。いずれも豊臣秀吉による天下統一、徳川家康による江戸幕府といった時期に造られた、いわゆる近世城郭の姿です。天下統一前後、大名の戦いのなかで、堅固で大規模な近世城郭相手の強攻策はできるだけ避けられました。築城によってその城への攻撃を回避させる、という近世城郭の一面について紹介します。

No.	名 称	時代	世紀(年号)	所蔵者
1	春日井郡清須古城之図	江戸	17	名古屋市蓬左文庫
2	春日井郡小牧村古城之図	江戸	17	名古屋市蓬左文庫
3	濃州厚見郡岐阜古城之図	江戸	17	名古屋市蓬左文庫
4	知多郡緒川村古城之図	江戸	17	名古屋市蓬左文庫
5	知多郡大高古城図	江戸	17	名古屋市蓬左文庫
6	愛知郡末森村古城絵図	江戸	17	名古屋市蓬左文庫
7	城取図解 伊藤藤景編・同鶴之進画 五巻の内	江戸	寛政9<1797>	名古屋市蓬左文庫
8	主図合結記	十一冊の内	江戸 18	名古屋市蓬左文庫
9	大坂冬陣備立之図	江戸	17-18	名古屋市蓬左文庫
10	名古屋城石垣刻印「加藤肥後守内南条元宅」拓本(原資料 江戸時代)	昭和	20	名古屋市博物館

出品リストの番号は展示順を示していません。